

報告第 2 1 号

平成 2 9 年度公益財団法人宇治市文化センター経営評価の報告について

宇治市の出資法人への関わり方の基本的事項を定める条例第 5 条第 1 項の規定に基づき、平成 2 9 年度公益財団法人宇治市文化センター経営評価について、別紙のとおり報告する。

平成 3 0 年 9 月 1 8 日提出

宇治市長 山 本 正

平成30年6月29日
30公財字文第67号

宇治市長 山本 正 様

所在地	宇治市折居台一丁目1番地
法人名	公益財団法人宇治市文化センター
代表者名	理事長 土屋 炎

宇治市出資法人自己評価報告書の提出について

宇治市の出資法人への関わり方の基本的事項を定める条例第4条第2項に基づき、次のとおり報告します。

第1号様式

宇治市出資法人自己評価報告書

1. 法人の概要

団体名	公益財団法人宇治市文化センター	設立年月日	昭和59年10月28日
公益財団法人への移行年月日			平成23年4月1日
基本財産	10,000千円 (移行前 10,000千円 うち市出えん・出資金 10,000千円 出資比率100%)		
設立目的	すぐれた文化、芸術を企画、公開し、並びに市民の文化活動の育成を図り、もって市民の文化、芸術の普及向上に努め、広く市民文化の振興に寄与する。		

2. 役職員の状況

		平成27年度		平成28年度		平成29年度				
		市職員	市OB	市職員	市OB	市職員	市OB			
役員	常勤	1	0	1	1	0	1	1	0	1
	非常勤	14	3	2	14	3	2	14	3	2
職員	管理職	2	0	2	2	0	2	2	0	2
	一般職	6	0	1	6	0	1	6	0	1
	計	8	0	3	8	0	3	8	0	3

*役員と職員の兼務は重複して計上している。

3. 事業の概要

主要事業名	事業内容
自主文化事業	音楽、舞踊、演劇、芸能などの舞台芸術公演及び映画上映会等の開催 宇治市文化事業基金条例に基づく文化会館使用料助成事業
文化会館運営事業 (貸館事業)	文化芸術活動等の利用に対する文化会館の施設・設備の提供
文化センター施設 管理事業	文化センターの施設・設備の維持管理

4. 財務状況

1) 収支・正味財産の状況

(単位：円)

年 度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度
収 入	150,968,494	149,112,758	145,935,069
収益事業収入等	16,742,295	9,665,654	7,598,645
市 支 出 金	134,226,199	139,447,104	138,336,424
人 件 費	35,536,736	38,426,453	39,223,668
事 業 費	98,689,463	101,020,651	99,112,756
支 出	150,968,494	149,112,758	145,935,069
人 件 費	35,536,736	38,426,453	39,223,668
事 業 費	115,431,758	110,686,305	106,711,401
当期収支差額	0	0	0
当期正味財産増減額	0	0	0
期末正味財産合計額	10,000,000	10,000,000	10,000,000

2) 貸借対照表

(単位：円)

年 度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度
資産合計	43,525,645	44,156,683	42,949,682
流 動 資 産	16,218,677	16,553,935	14,657,934
固 定 資 産	27,306,968	27,602,748	28,291,748
負債合計	33,525,645	34,156,683	32,949,682
流 動 負 債	16,218,677	16,553,935	14,657,934
固 定 負 債	17,306,968	17,602,748	18,291,748
正味財産合計	10,000,000	10,000,000	10,000,000
基 本 財 産	10,000,000	10,000,000	10,000,000
その他正味財産	0	0	0

3) 市財政支出の状況

(単位：円)

年 度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度
補 助 金	40,768,688	46,248,398	45,822,502
委 託 料	93,457,511	93,198,706	92,513,922
その他(分担金等)	0	0	0
計	134,226,199	139,447,104	138,336,424
貸 付 金	0	0	0
借入金残高(期末)	0	0	0
市の債務保証残高(期末)	0	0	0
市の損失補償残高(期末)	0	0	0

4) 主要経営指標

指標	算式	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度
人件費比率	人件費計÷支出計	23.5%	25.8%	26.9%
自己資本比率	正味財産計÷資産計	23.0%	22.6%	23.3%
流動比率	流動資産÷流動負債	100%	100%	100%
借入金依存度	借入金残高÷総資産	0%	0%	0%
借入金返済能力	長期借入金÷(減価償却費+税引後利益)	- %	- %	- %

5. 経営評価（法人自己評価）

視点	評価	コメント
目的適合性	A	<p>公益法人の主目的である公益目的事業（文化芸術の振興）として自主文化事業を積極的に推進し、市民の文化芸術の普及向上に努めるとともに、文化会館の指定管理者として市民の文化芸術活動に係る施設の円滑な利用に努め、財団の目的である「市民文化の振興」に適合した事業活動に取り組んだ。引き続き市民参加型公演など特色ある自主文化事業の創意工夫や文化会館の円滑な利用及び利用促進に向けた取組が重要である。</p> <p>(1) 自主文化事業</p> <p>宇治市補助金及び京都府補助金の交付や京都府委託事業の認定を受けて、次の事業区分により市民をはじめ広く文化芸術の参加・鑑賞機会を提供するとともに、市民の文化芸術活動の育成・促進に努めた。</p> <p>□ 鑑賞機会提供事業</p> <p>プロアーティストによる音楽、舞踊、芸能に係る舞台芸術公演及び宇治シネマ劇場を開催し、約10,000人の市民等に文化芸術の鑑賞機会を提供した。</p> <p>宇治シネマ劇場では、無料映画上映会として「避難訓練宇治シネマ劇場」「クールスポット宇治シネマ劇場」を開催するとともに、鑑賞カード（5回鑑賞で次回無料）の新設や上映作品の監督、俳優の来館を通じて集客増員に努め、有料上映会の1日平均入場者数は386人となり目標人数（350人）を超えることができた。</p> <p>□ 参加創造事業</p> <p>重点取組として市内の社会教育団体や学校、文化芸術活動団体等と連携して、市民が参加創造する舞台芸術公演やワークショップ型公演を積極的に推進し、約400人の市民に文化芸術の参加創造機会を提供するとともに、宇治市文化会館の特色ある取組を市内外に発信することができた。</p>

		<p>〈自主制作型公演〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ❖ 交響吹奏楽団 Osaka Shion Wind Orchestra 市内吹奏楽サークルが共演、マルシェ同時開催 ❖ 参加型ファミリーミュージカル「オズの魔法使いと夢の国」 市内小中学生がプロ劇団と共演 ❖ 源氏物語朗読劇講座 市内近隣小中高生が参加、宇治っ子朗読劇団☆Genjiを結成して市内外の催物で活動成果を発表 <p>〈共催型公演〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ❖ やましろドラマティックシアター「ここに生きる」(演劇公演) 市内近隣50名が参加、宇治茶イベント同時開催 ❖ 京都府警察音楽隊コンサート 市内中学校吹奏楽部が共演、警察広報に参加 <p>□ 普及啓発事業</p> <p>恒例の宇治市民文化芸術祭を共催し、約1,000人の市民に文化芸術活動の発表の場を提供することができた。</p> <p>また、宇治市文化事業基金を活用して、市内の団体・サークルなど22団体に文化会館の使用料を助成し、市民の文化芸術活動の育成・促進に努めた。</p> <p>(2) 文化会館の円滑な利用</p> <p>引き続き、練習室など関連施設の個別利用の促進に努めるとともに、ホール利用に係る「利用担当者制」(同じ職員が一貫した利用サポートを行うしくみ)を確立し、ホール利用の円滑化とコーディネート機能の向上に努めた。</p> <p>施設利用実績については、貸館利用では市民サークル等の周年・隔年開催の催物利用、プロアーティスト公演の利用が少なかったこと、関連施設の定期的貸館がなくなったこと、自主文化事業では隔年開催の第九コンサート、NHKとの共催事業がなかったことなどにより、施設全体の利用人数は前年度に比べ約15,000人減少し、利用率、使用料収納額も減少した。</p> <p>主要施設である大小ホールの年間利用件数は266件(前年度306件)、利用率は66%(前年度69%)、利用人数は約129,000人(前年度137,000人)であった。</p>
効率性	A	<p>自主文化事業の運営では、引き続きリスク負担の少ない共催型公演等に積極的に取り組み、少額費用で幅広い文化芸術の参加・鑑賞機会の提供に努めた。</p> <p>文化センター施設管理事業では、引き続き光熱水量の縮減に努めるとともに、委託業務内容の見直しによる別途発注業務の縮減や安全・快適性を優先した施設修繕に取り組み、経年劣化が進行している施設・設備の効率的な維持・保全に努めた。</p>

組織運営 健全性	B	<p>関係法令及び定款に従い、評議員会、理事会を運営するとともに、自主文化事業の適正かつ効果的な運営を図るため、外部の有識者を含めた「自主文化事業選定委員会」及び「文化会館使用料助成審査委員会」を設置し健全な組織運営に取り組んだ。</p> <p>事務局運営では、重点取組として研修や訓練等を通じて職員のスキルアップに努めるとともに、主要事業に係る業務運営マニュアルの整備に取り組み、利用者サービスの向上、緊急時対応力の向上及び安定した事務の確立に努めたが、利用相談などにおけるコーディネート機能を高めていくためには、会館設備の熟知や専門事業者に委託している舞台管理業務の基礎的な知識など、職員の業務知識力の一層の向上を図る必要がある。</p>
財務 健全性	B	<p>宇治市出資法人として、財務の自立性を高め健全な法人運営を図るため、自主文化事業の運営においては、関係補助制度等を積極的に活用するとともに、入場料収入（主催型の場合）・入場券販売手数料収入（共催型の場合）の向上をはじめ、公演チケットの受託販売や他団体からの受託事務、利便設備の設置手数料などにより自主財源の確保に努め、当初の収支計画における自主財源目標額を超えることができた。</p> <p>一方で、自主文化事業の財源のひとつになっている関係補助制度については、数年度にわたり認定を受けている制度もあることから、今後の継続的な活用に懸念があり、現状の財務状況は良好ではあるが安定した状況にはなく、引き続き、飲料自動販売機設置手数料の見直しなど、安定した自主財源の確保に向けた方策の検討や自主文化事業の一層の効率的・効果的な運営に努める必要がある。</p>
総合評価	B	<p>平成29年度の事業活動は財団の目的に適合し、健全な組織運営及び財務運営に努めたが、引き続き、職員の人材育成や業務運営マニュアルの整備による事務局体制の強化、自主文化事業における安定した自主財源の確保拡大と特色ある取組の創意工夫、文化会館の円滑な利用及び利用促進に努めていく必要がある。</p>

評価の目安 A：良好である B：ほぼ良好である C：やや課題がある D：課題が多い